

1. 国営飛鳥歴史公園の今後の展開とキトラ古墳周辺地区の役割の整理

(1) 既存地区の動向を踏まえた地区間の連携、役割分担の確認

1) 既存地区の主要機能と動向

国営飛鳥歴史公園の既存4地区の主要機能についてはこれまでの計画において次のよう設定されている。

祝戸地区：展望散策及び研修宿泊機能
甘樫丘地区：展望及び散策機能
石舞台地区：史跡観賞及び休養機能
高松塚周辺地区：史跡や模写壁画の観賞の利便と管理機能

この機能をもとに飛鳥周遊客への情報・サービスの提供が行われてきたが、新たな遺跡の発掘や、飛鳥周遊動向の変化等により、各地区において以下のように期待される機能に変化が見られる。

祝戸地区

研修宿泊施設の老朽化と来園者の減少
稲淵地区～奥飛鳥の棚田景観への着目とゲート機能の付加
にぎわいどおり特別用途地区の設定など地区周辺における土地利用転換の進行

甘樫丘地区

樹林の間伐による展望機能の向上
里山ボランティアや市民参加型農園など地域住民の公園維持管理への参加

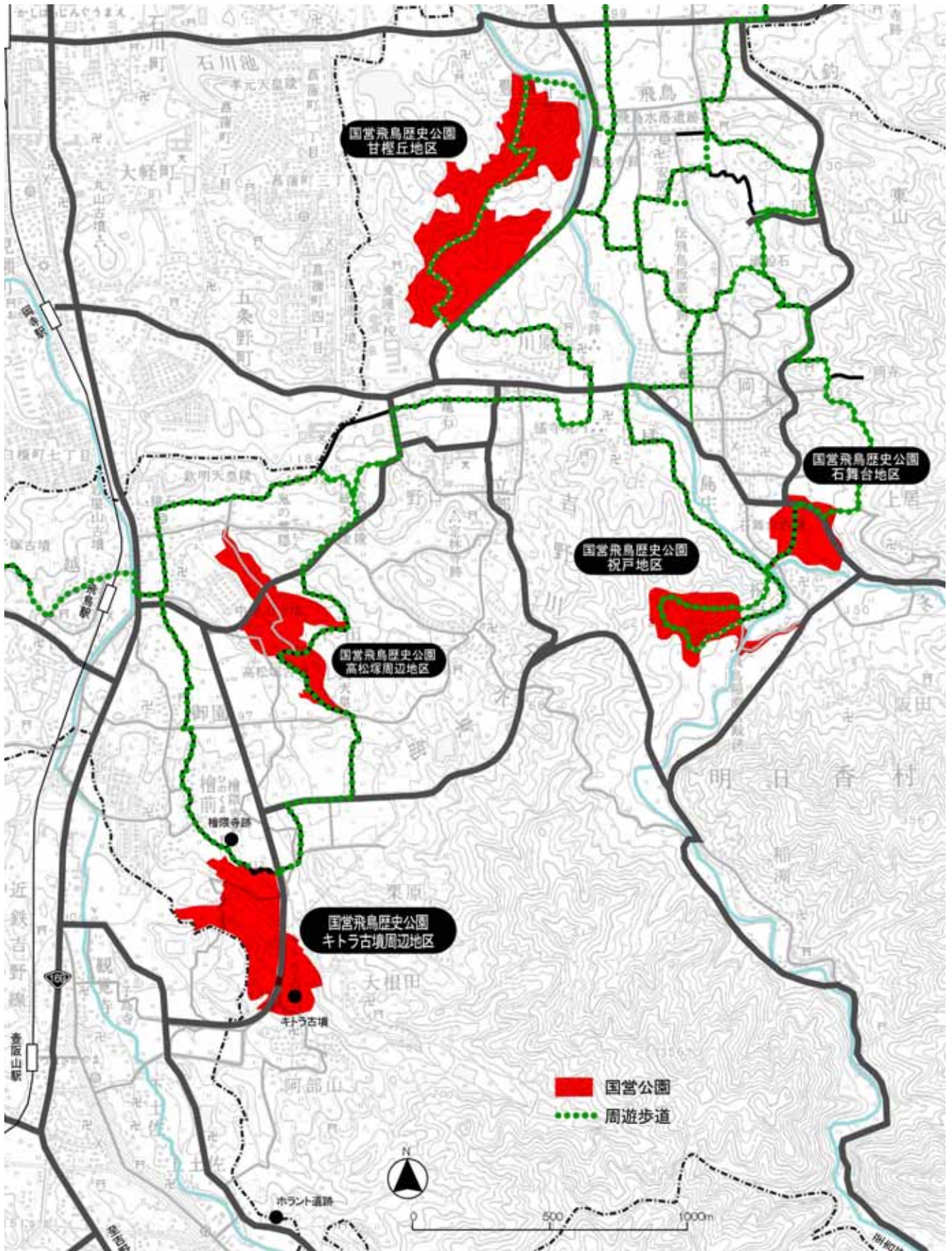
石舞台地区

イベント空間としての利用の拡大
自家用車利用による一極集中

高松塚周辺地区

飛鳥周遊の情報拠点としての機能の向上
壁画や古墳に対する根強い人気による壁画館入場者数の安定的推移

国营飛鳥歴史公園位置図



2) 今後の課題と役割分担

国営飛鳥歴史公園で5番目の地区となるキトラ古墳周辺地区の整備を検討するにあたり、近年の観光客の動態や明日香村の基盤整備状況を踏まえ、これまでの史跡鑑賞や展望、休憩に加え、以下の役割を担うことが求められている。

歴史的風土及び文化財等の活用による体験学習の場づくり

マルチメディアの普及や「総合学習の時間」の増加などの背景を踏まえ、文化財の復元、ビジュアルな展示、解説等により、来園者が飛鳥の歴史や文化をわかりやすく理解でき、多くの人々が遊びながら楽しく学び、体験し、実感できる歴史文化学習の場となる屋内展示施設を整備する。

また、史跡、樹林地、農地を含む歴史的風土を生かした体験的歴史学習を展開する屋外体験フィールドを整備し、祝戸地区の宿泊機能を生かした朝夕のイベントの開催や本地区を出発点とする新たな周遊コースなど、飛鳥公園各地区や飛鳥の各地へ向かうグレンデとする。

歴史的風土の保全と創造的維持活用機能の強化

既存4地区の敷地は大半が第1種歴史的風土保存地区に指定されているが、本地区では第2種歴史的風土保存地区であることに加え、風致地区の指定についても第2種と第3種にまたがる位置にある法規制の緩やかな場所である。このため、歴史的風土の創造的維持活用保全(歴風審答申)のモデルとしての役割がより一層高まる。公園区域内の保全を通じ、飛鳥地方の歴史的風土の特徴である文化財と一体となった田園環境(水田の広がり、棚田、里山)を含めた歴史的風土の創造的維持活用と保全を目指す。

地域活性化と東アジア圏との参加交流の拠点づくり

歴史的風土の中で、来園者が参加し、交流しながら様々な活動が行える場を提供し、地域の活性化の拠点となる歴史公園の整備を地域住民及び国民の参加・協力を得ながら進めることとし、様々な活動へ来園者及び地域住民の参加機会を創出する国営公園と地域とのネットワークの整備を進めていく。

また、国際的な文化交流の興味の高まりに対応し、現在、明日香村で姉妹都市を提携している扶余(フヨ)を始め、古墳文化のルーツである東アジアにおける海外交流を含めた情報案内及びイベントの開催を行う。

高次サービス機能の強化

飛鳥周遊客の便益施設、情報案内等、来園者と地域のニーズに柔軟に対応し、村内では提供が困難な高次の情報サービス、交通サービスを提供し、飛鳥公園各地区の連携を高めることで飛鳥周遊の質の向上を図る。また、最寄りの駅となる近鉄壱阪山駅からのアプローチへの対応や高取町内に点在する遺跡の情報提供など、広域的な利用情報もあわせておこなう。